

# 袴田京太郎 彫刻の壊れ

Brokenness in Sculpture Kyotaro Hakamata



2020/12/12(土) — 12/26(土)

2021/1/12(火) — 1/23(土)

M A 2 Gallery

open hour 12 - 19 closed on sun, mon and national holidays

東京都渋谷区恵比寿 3-3-8 Tel.03-3444-1133 [www.ma2gallery.com](http://www.ma2gallery.com)

### 「彫刻の壊れ」

彫刻が世界と繋がることができるのは、彫刻が壊れた時である。

打ち倒された権力者の銅像が、閉鎖された美術館に立つ誰にも見られることのない仏像が、日常に流れ出し、風景の一部となる。

あるいは、壁際に立つ彫像の背面、設置や撤去の際に偶然見かけた彫刻の裏側、底面、それらは図らずも彫刻が求め続けてきたリアル／日常である。望まないかたちで到達してしまったリアル／日常を、彫刻は受け入れることができるだろうか。

「彫刻の壊れ」が、「彫刻の裏側」が、どこにも属さない宙ぶらりんの彫刻なるものに重力を与え、この世界のどこかに着地させる。

1. 切断された木彫をアクリル板の積層によって2つに複製する。
2. 複製された2つの彫刻、その正面を隠す。
3. 既製の彫刻の正面を隠し、裏側だけを見せる。
4. 鑑賞者の身体に直接触れ、跡を残す彫刻。

2020年10月20日 袴田京太郎

## Biography

略歴

### 袴田京太郎 | Kyotaro Hakamata

- 1963年 静岡県生まれ。1987年、武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業。  
1994-95年 文化庁芸術家在外研修員として渡米、ペンシルバニア州、フィラデルフィア滞在。  
1996-97年 五島記念文化賞美術新人賞受賞による海外研修として、中国、チベット、ネパールに滞在。  
2012年 第22回タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞、平成24年度静岡県文化奨励賞受賞

主な個展に「変成態 - リアルな現代の物質性 vol.5」(ギャラリーαM、2002年)、「公開制作44 袴田京太郎1000層」(府中市美術館、2008-09年)、Shizubi Project 1「人と煙と消えるかたち 袴田京太郎」(静岡市美術館、2011年)、「扮する人」(MA2Gallery、2012年)、「袴田京太郎展一人と煙、その他一」(平塚市美術館、2014年)、袴田京太郎「悲劇、その他」(MA2ギャラリー、2016年)、「やわらかい、突き刺さる」(Mizuho Oshiro ギャラリー、2018年)「循環しないレモンイエロー」(カスヤの森美術館、2019年)など。

主なグループ展に「樁会展 Trans - Figurative」(資生堂ギャラリー、2007年、08年、10年)、「The Power of Japanese Contemporary Sculpture」(AKI gallery、台北、2012年)「色めく彫刻 - よみがえる美意識」(群馬県立館林美術館、2012年)、「ミニマル! ポストミニマル」(宇都宮美術館、2013年)、「ROKKO MEETS ART 芸術散歩 2013」(六甲山、2013年)、N COLLECTION「テセウスの船 - 鏡のあちらとこちら」(アートベース百島、2015年)「線の美学」(愛知県美術館、2015年)、「悪魔的な」伊庭靖子・児玉靖枝・袴田京太郎(MA2ギャラリー、2019年)など。「DOMANI・明日展」(国立新美術館、2021年)を予定。



参考作品「扮する人 - 新しい幼児」2019